

部外秘	音楽(器楽合奏)
-----	----------

項目	観点	教科書名	
		中学器楽 音楽のおくりもの(17・教出)	中学生の器楽(27・教芸)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養うために、どのように配慮されているか。	・教科書で出会い、表現活動につながっていく和楽器とその名手たちによる演奏の様子が巻頭に配置され、学習を通して音楽文化と豊かに関われるよう配慮されている。 ・表現活動で使うリコーダーや打楽器と、楽器の背景にある風土や文化、歴史、伝統を考えるページがあり、多様な音楽に親しんでいけるよう工夫されている。 ・現代の生徒の生活や心情に即した教材を取り上げたり、写真や学習に関連したWEB上の資料を効果的に用いたりして、生徒の主体的な学びを引き出すよう配慮されている。 ・楽器を介した「人と音楽とのつながり」「人と社会とのつながり」を生み出す取組について紹介するページがあり、音楽文化と豊かに関わることができるよう配慮されている。 ・多様な楽器の組み合わせによるアンサンブル活動を多数掲載し、基本的な奏法を生かして他者と協働して表現することができるよう配慮されている。 ・和楽器を用いた多様なアンサンブル活動及び創作活動が生徒にとって親しみやすい教材とともに扱われ、我が国の伝統音楽や音楽文化に関して配慮されている。	・目次の中で音楽科で身に付けられる資質・能力の三つの柱が明確化されている。 ・学習のねらいが分かりやすく示されており、音楽と豊かに関わりながら学校での学びと自らの生活とをつなぐことができるよう配慮されている。 ・音楽活動の経験や音楽科で得た知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す特集が配置されている。 ・様々な角度から音楽を捉える「音楽って何だろう？」ページを巻頭に配置することで、器楽の学習に向かう意欲を引き出すよう工夫されている。 ・バンドスコアや様々なジャンルとのコラボレーション、同世代の音楽活動の特集ページで取り上げることで、生徒の多様な興味・関心を引き出し、好奇心に働きかけるよう工夫されている。 ・中学生への思いを託した新作を、豊富に取り入れることで、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。
2 内容の程度及び取扱いについて	○音楽的な見方・考え方を働かせるために、どのような工夫が見られるか。	・題材名の中で「音楽を形づくっている要素」とその働きに着目し、知覚したことと感受したこととの関わりや音楽的な見方・考え方を活用できるよう工夫されている。 ・器楽表現や鑑賞を通じて学習した楽器の、音の出る仕組みや旋律の特徴に着目し、話し合いを通して学びを深められるよう「表現の仕方を比べてみよう」というページが配置されている。 ・管楽器や弦楽器といった楽器のカテゴリごとに、表現の仕方を音楽的な見方・考え方を働かせて整理し、交流して共有するページが設定されている。	・「音楽を形づくっている要素」を各教材において例示することで、音楽的な見方・考え方を働かせる際の大切な視点を明確化している。 ・音楽活動を通して、無理なく「音楽を形づくっている要素」を捉えたり、それらを生かして器楽や創作の活動を進めたりできるよう、教材が適切に配置されている。 ・知覚・感受したことをもとに「思考・判断・表現」を行うためのヒントがキャラクターの吹き出しによって示されおり、思考を深めるための適切な配慮がなされている。 ・「学びのコンパス」では、曲に関する自分の考えをもち、友達との意見交流を通して学習を深めることができるよう工夫されている。 ・「アンサンブルセミナー」という資料によって、音楽的な見方・考え方を働かせるためのポイントが提示されている。
3 内容の配列・分量	○題材の構成や教材の配列には、どのような特色があるか。	・全学年の系統性に基づいて組織された題材(各楽器見開き左上提示)を軸に、各題材内の教材は教材性を生かして関連・対照・対比されながら設定され、紙面後段の合奏教材「合わせて演奏しよう」及び「名曲旋律集」と合わせて学習がより深まるよう配慮されている。 ・主要部分の教材は、各学年の授業時数とカリキュラムマネジメントの実態に応じて過不足なく扱われ、各教材は学習内容が明示されるとともに、活動の手順やポイントが簡潔に表記されている。 ・基礎・基本を確実に身に付ける主要部分と選択できるオプション部分の教材を組み合わせることにより、より発展的な学習が進められるよう配慮されている。 ・教材等について生徒に分かりやすく丁寧に文章で解説されており、生徒の主体的な学習を引き出すよう配慮されている。	・「学びの地図」により器楽の学習の見通しをもつことができるよう工夫されている。 ・「学びのコンパス」「Q＆A」や各所のコラムでは、小学校で身に付けたことや基礎的な学習内容を確認し、繰り返し学習できるよう工夫されている。 ・各学校の実情に応じて、各教材で扱う「音楽を形づくっている要素」を適宜増減できるよう配慮されている。
4 表記・体裁・資料	○楽譜や写真などの表記、表現、動画・音声やアニメーション等のコンテンツなどの使用上の便宜については、どのような工夫が見られるか。	・リコーダー演奏時の運指が楽譜脇に明示され、必要に応じて正しい運指を確認しながら演奏できるよう工夫されている。 ・教材曲の旋律や奏法の模範演奏QRコードを読み取ることで、聴きながら学習が進められるよう工夫されている。 ・楽譜の大きさ(線幅・五線間の幅・左右幅・段間)や箏の縦線、使用する言葉等、中学生の発達段階に配慮されており、適切である。 ・楽譜や文字は適度な大きさで、鮮明で読みやすい配慮がされている。また印刷は発色がよく鮮明である。 ・表紙は丈夫で使いやすく、抗菌加工もされており、生徒が安心して長期間使用できる。 ・「まなびリンク」のピクトグラム(マーク)が示され、学習に対応した動画等の資料がWEB上に過不足なく用意されており、生徒の個別最適な学びに即している。 ・指導者用デジタル教科書で、教科書指導書のCDに収録された音源を、楽譜や歌詞に合わせて聴くことができる。 ・学習者用デジタル教科書には、「音声読み上げ」「総ルビ」「文字サイズ変更」等、学習者支援機能が充実している。 ・指導者用デジタル教材と学習者用デジタル教材同一のコンテンツが実装され、編集用ファイルを先生・生徒同士で共有可能である。 ・判読性・視認性の高い配色とレイアウト(カラーユニバーサルデザイン)や文字(ユニバーサルデザインフォント)の使用など、細部にわたって配慮されている。 ・資料や解説が詳しく掲載されており、学習上必要な情報が得やすい体裁となっている。	・リコーダー演奏時の運指が楽譜脇に明示され、必要に応じて正しい運指を確認しながら演奏できるよう工夫されている。 ・ギターの運指図が、実際の手の形や指の向き等が捉えやすいよう、分かりやすく図式化されている。 ・教材曲の奏法や伴奏音源、関連動画や資料、ワークシート等の学習コンテンツが豊富に用意されている。QRコードを読み取ることで、視聴しながら学習が進められるよう工夫されている。 ・表現活動に必要な奏法、身体の使い方等が文章、イラスト、写真等を用いて分かりやすく解説されており、楽器の基礎的な技能の習得に配慮されている。 ・楽譜の大きさ(線幅・五線間の幅・左右幅・段間)や箏の縦線、使用する言葉等、中学生の発達段階に配慮されており、適切である。 ・UDフォントをタイトルや文章だけではなく、楽譜中の歌詞にも使うことで、可読性・可視性が高まるよう配慮されている。 ・色覚特性の違いが学習内容の理解に影響を与えないよう、全ての紙面、図版、イラストについて先天色覚異常(色盲・色弱)をもつ方からの助言を受け、編集されている。 ・歌詞や文章を写真中に入れるときは、無地の部分に配慮したり白文字を使用したりすることで、誰もが読みやすい紙面となるよう配慮されている。 ・用紙は白さや光沢感を調整し、目の負担軽減に配慮されている。 ・印刷は発色がよく鮮明でありつつ楽譜の黒色が光らないよう配慮されている。 ・学習上必要な情報に確実に注目できるよう、シンプルなデザインが採用されている。